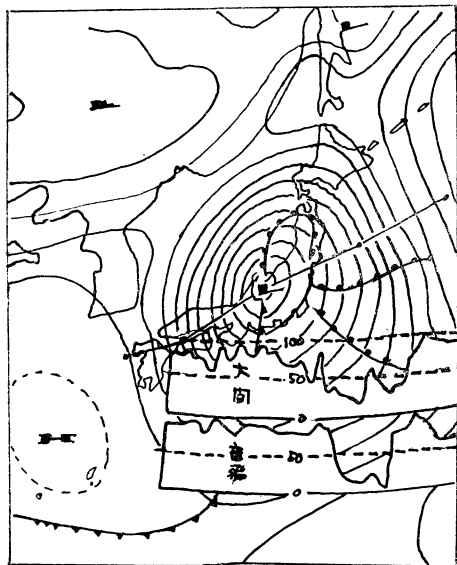


第3の場合は極めて対称的で俗にいう嵐の前の静けさを現出する。第11図について説明しよう。

この場合は一般に発達過程をとるのが特徴でオホーツク海にはいって一週間も吹き荒れることがある。(冬季)しかし津軽海峡によく副低気圧が発生するが、こうなるとほとんど吹き出さない。場の変化は \times , \oplus , \times , \oplus で風は東から南をまわって北西のち西に変わるが、東ないし南は弱く低気圧が最も接近し、しかも西に変わった140°線近くで急に吹き出し、しかも最大となる(西風)。一方平館では南東のち北西のち南と変わるが、平館の南東風は予想外に強いのが特徴である。

ii) 低気圧が南を通る場合 これに反し低気圧が海峡より南を通った場合は場の風は北又は東にはじまる。ほ



第12図 南を通る場合の風速変化

とんどが南偏した日本海低、及び南海低である。第12図について説明しよう。場は \times , \oplus , \oplus , \times と変り海峡方面は東のち北をまわって西となる。この場合は東風の時から強い。しかし144°をすぎて風が北に变りはじめるころから急減し、北西ないし西に变って再び強まる。大体において東、西とも同じ程度であり又平館では南東のち北西と180°急変する。なお低気圧が南偏し南海道を通る時は極端に弱い。

§ 7. 摘要

1. 海峡では非常に風が強く15米(max)以上の暴風日数は竜飛で年の年分、大間で3分の1、又冬期では竜飛で20日ないし25日、大間でも15日ないし17日に及ぶ。
2. 海峡は北及び南の風は吹きにくい所でほとんど西及び東にかざられる。
3. \times \oplus \times \oplus 中では津軽海峡は西ないし南西, \oplus \times \times では東ないし北東, 平館海峡では \times \oplus で北西, \oplus \times \times では南東が吹く。
4. 竜飛, 大間を y , 青森を x とすれば
 - i) 季節風の時 $y = 0.83x + 12.39$ (竜飛)
 $y = 0.69x + 11.40$ (大間)
 - ii) 低気圧の西風 $y = 1.2x + 7.46$ (竜飛)
 - iii) オホーツク海高気圧と日本海低気圧
 $y = 0.77x + 8.3$ (竜飛)
5. 海峡で強風域は西風の場合で焼山, 東風の時に葛登支沖, 平館海峡である。
6. 竜飛と船の風との間には密接な関係 ($\rho = 0.84 \pm 0.14$) がある。
7. 低気圧が海峡の北を通る時は一般に140°線前が弱く、すぎてから急に強まる。又南を通る場合は、前後とまも大した差がなくむしろ通過して北風にまわる頃弱る。
—以上—

訂正 “天気” 4巻5号中つぎのような誤がありましたので謹んで訂正します

Page	段	行	誤	正
11	第1図		観測配置図	観測点配置図
12	左	下から12	瑞穩中	瑞穂中
12	右	第3図	下半部周巻記録は第8図下半部と入れ換え	
12	右	第3図	気温記録	気温自記記録
13	左	上から6	第5図に示す	第5図に示す。
14	右	第8図	下半部周巻記録は第3図下半部と入れ換え	
14	右	第8図	気温自記記録	気温自記記録
17	右	第1表	第1表	第2表
18	左	第2表	第2表	第1表